

# 2年生が総合でハンセン病を事前学習

二年生は18日(火)、午後の総合的な学習の時間で、愛楽園訪問前の事前学習を行いました。哲夫さんの詩を元にした授業形式で、佳史先生ら若手教師が展開してくれました。

「ライになって○○○。」この壮絶な言葉をついた桜井さんは十七才でハンセン病を発症し、母親から「すぐ帰れるよ」と言われて家を出て療養所に送られます。そこで〇年もの間、外に出ることも許されず、地獄のような生活を強いられます。



# 清流大川

羽地中学校  
学校だより 77号  
せいりゅうおおかわ  
H30. 8.30

桜井さんは療養所内で真佐子さんとという女性と結婚しますが、医師の命令で妊娠した妻の墮胎を強制されました。真佐子さんも白血病で亡くなってしまいました。亡くなった娘のことを思い、その後、多くの詩を詠んでいます。

ハンセン病は極めて感染症の低い皮膚病ですが、当時はよく理解されておらず、患者は隔離政策のもとで、ひどい差別と偏見にさらされました。桜井さんは薬の過剰投与の副作用により、高熱・失明・眼球摘出・両手指の切断・菌を殺すとした顔面への焼きゴテによる皮膚の火傷など、直視できない顔面となってしまいました。

それでも桜井さんは人間としての尊厳を失わず、その過酷な運命を背負って生き抜いた強い魂を詩で表現し、私達を励ましてくれるのです。



## 家庭学習 続ける習慣 つける自信

全学年で取り組んでいる家庭学習。三年生では「成長ノート」として、学習の足跡を残しています。2号目に入って喜びのKさんです。

二年生はブレゼン資の詩を音読したり、ワークシートに疑問や感想をメモしたりして読んでいます。

「この世に神様なんかいるのかもしれない」と思ったり、なんで俺はっかって苦しめるのかわからなくて毎日考えていた。その心を変えたのは、何だったのか、考



## 初・保護者語り一会 Vol.7



もう私は涙が溢れて、今まで私は、やらないといけないと思っていたから、子供の状態も見ずに押しつけていたんだな、つくづく反省しました。そして、カウんセラの先生からすくにやってほしいことを教えてもらいました。それは、「一日で少しの時間で良いから、〇〇さんの時間を作ってあげて下さい。お話ししてもいいし、一緒に過ごすだけで良いので、10分でもいいです。それを毎日やるのではなく、意図的に(時間を)もつことを意識してみてください。」一緒に本を読む、一緒に絵を描く、一緒にドライブする、一緒に海を見てほーとするなど、やってみて下さい。」と言われました。さらに、「それだけで、この子は先に進んでいきます。時間をかけて見えて下さい。野球の監督へは、お母さんから話して下さい。時間をください。お母さんから言えば、監督も納得してくれます。時間をかけて見てくださいね。」とも言われました。

私は、三年生の時にそういう機会があったのに、見過ごしてしまって、すみませんって涙ながらに話したら、カウんセラの先生は、琴恵先生という方なんですけど、「お母さん、遅いってことはいいですよ、気づいたときに始めればいので、遅いということはないですよ。頑張りましょう。」っておっしゃってくれました。

それから私は、そのことを実行していきました。(つづく)